

近年では、単に動物を飼育・展示するだけでなく、希少な動物を保護し、繁殖させることが、動物園の重要な役割と認識されるようになってきた。1999年、ズーラシアの開園と同時に、横浜市繁殖センターが設立されたのも、こうした流れを受けてのことだ。動物の保護と繁殖についての知恵を学ぶための国境を越えた技術交流も、今では当たり前になっている。世界のさまざまな国と交流を続けてきた横浜市の動物園が、2008年に技術協力を始めたのが、



動物を取り巻く問題を考える教育活動「アフリカンクルーズ」は、職員自らが脚本を考え、演じる寸劇プログラムだ

現地の事情踏まえた 研修と来園者プログラム

ウガンダとの協力の柱は三つある。一つ目は、獣医の技術研修。二つ目は、飼育動物の繁殖、管理方法などに関する研修。三つ目は、来園者向けの教育プログラムの作成だ。毎年、ウガンダから現場スタッフや管理職員が来日して横浜市の動物園で一カ月間の研修を受ける一方、横浜市からも専門家が2週間、UWECを訪問して現地

の状況を確認し、技術指導や意見を超えた。年間来園者数は30万人



街中ではまず出会う機会がないキリンにえさをやる来園者

動物園のもう一つの仕事

世界中のさまざまな生き物と出会える動物園。子どもにも大人にも人気の施設だが、その役割は他にもある。横浜市の動物園が、アフリカでも有数の野生動物の王国ウガンダと共に進めている取り組みとは。

動物園の国際ネットワーク 希少生物保護で連携

横浜市の丘陵地帯に広がる、よこはま動物園ズーラシア。2015年4月に「アフリカのサバンナ」が全面開園し、一年間で121万人が訪れた人気スポットだ。「横浜には三つの動物園があります。動物が本来生活していた環境に近い。生息環境展示」を行うズーラシア、横浜の街の中心部にあって気軽に動物と出会える野毛山動物園、そして、世界の草食動物を中心に飼育する、森に囲まれた金沢動物園。合わせて200種以上、およそ4000頭を飼育しています。三つの動物園を管理する公益財団法人横浜市緑の協会の長倉かすみさんは、そう説明してくれた。「また、ズーラシアに併設されている横浜市繁殖センターでは、絶滅危惧種を中心に13



内視鏡を使ってハゲワシの性別を調べる。獣医の技術を高めるのも、研修の目的の一つだ

種類の動物の繁殖を行っています。横浜市の三つの動物園の飼育動物を主な対象とした繁殖のための調査研究をはじめ、冷凍動物園とも呼ばれる動物の精子や卵子の保存研究にも取り組んでいます」

交換を行っている。

実際にUWEC職員と交流する中で、長倉さんは日本とウガンダの課題への取り組み方の違いに気付いたという。「日本では、研修という一つの目的を定めて、その目標を達成するために決められた計画を着々とこなしていくことが多いのですが、ウガンダの人たちは研修で新しい技術を身に付けると、それを生かして新しいことにチャレンジしようとするのです」

例えば、鳥の卵を人工的にふ化させるときも、横浜市の動物園が提供したふ卵器で着実に多くの卵をかえすのではなく、別のふ卵器に応用できないか試してみるのだ。その結果、ふ化する卵は予想より減ってしまう。一見、効率が悪いように見えるが、実はそうしたチャレンジは、停電が多く、常に全てのふ卵器が稼働しているとは限らないウガンダで、状況に柔軟に対応するための工夫だった。

もう一つ、ウガンダの職員は自分たちの仕事の範囲を明確に区切っていて、他人の仕事と考えたことには一切手を出さず、工夫も凝らさない傾向があった。一方、日本では直接動物の世話をする飼育員が、獣医と同僚と相談してよりよい飼育の方法を考えたり、来園者への教育プログラムを作ったりしている。横浜市の動物園で飼育係のそうした姿に触れたことで、

自分たちにも来園者に伝えたいメッセージが生まれ、来園者向けの教育プログラムやガイド活動にも積極的に取り組むようになった。

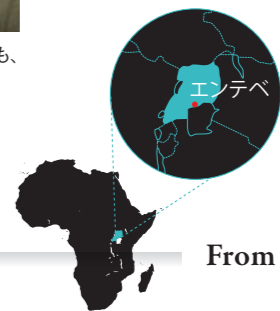
日本の動物園で人気の高い「動物との触れ合いコーナー」は、横浜市の動物園との交流がきっかけでUWECにも作られることになった。野生動物が豊富なウガンダでも、希少な動物がいるのは国立公園内などに限られている。都市部では動物に出会う機会が少なく、地方でも希少動物を見掛けることはほとんどない。そこで、UWEC内に身近な生き物と触れ合えるコーナーを作るとともに、私たちの生活がいかに生き物に支えられているかを学ぶ活動も展開していく予定だという。

「長年、ウガンダの人たちと交流したおかげで、現地の人たちの考え方が分かるようになってきました。交流を通して、私たちも知識を再確認しています」と話す長倉さん。文化の違いを超えて、動物たちを守るためにできることが見えてきたという。

日本には、動物園がおおよそ90カ所、水族館が60カ所ある。「みんな協力すれば、たくさん動物を守るはずですよ」と長倉さんは強調する。この夏、動物園に遊びに行ったときは、ぜひ希少な生き物を守る活動について考えてみてほしい。



チンパンジー飼育場に消防ホースを取り付けたところ(右)、チンパンジーたちがホースを使って遊び始めた(左)



ウガンダ
From **Uganda**